

かけがわ

第56号

平成28年11月1日

市議会

だより



「遠州役行者尊祭典・火渡り行」で開運
(原谷地区まちづくり事業)

おもな内容

CONTENTS

- 決算概要／決算特別委員長報告 2ページ
- 補正予算の概要／議案の審議結果 3ページ
- 子ども議会 4ページ
- 健康医療シンポジウム／議会報告会 5ページ
- 一般質問 6ページ
- 傍聴席／11月定例会の予定 12ページ

平成27年度 決算概要

実質単年度収支2億7,340万円の黒字決算

一般会計

区分	平成27年度	前年度対比
歳入決算額	463億9,931万円	17億3,659万円増
歳出決算額	448億7,912万円	16億8,286万円増
歳入歳出差引額	15億2,019万円	5,373万円増
実質単年度収支	2億7,340万円	2億2,475万円増

※実質単年度収支は単年度収支に財政調整基金への積立金を加えた額

特別会計

区分	平成27年度	前年度対比
歳入決算額	276億1,630万円	22億73万円増
歳出決算額	266億1,543万円	23億2,071万円増
歳入歳出差引額	10億87万円	1億1,998万円減

※特別会計とは国民健康保険、介護保険、下水道事業など13会計

水道事業会計（収益的収支）

区分	平成27年度	前年度対比
歳入決算額	30億7,971万円	1,824万円増
歳出決算額	29億5,432万円	684万円減
歳入歳出差引額	1億2,539万円	2,508万円増

● 主な歳入

- ① 市税収入は税制改正等により前年度から2.4億円減の208.9億円
- ② 地方消費税交付金は9.2億円増の23.6億円
- ③ 市債発行は中央消防署、学校給食センター建設等に5.2億円増の41.9億円

● 主な歳出

- ① 合併推進道路整備推進事業
- ② 中央消防署建設事業
- ③ 地震・津波対策の推進

財政状況指数

区分	金額・指数	前年度対比
財政力指数（単年度）	0.897	-0.015
経常収支比率	82.8	-1.4
実質公債費比率	10.1	-0.2
将来負担比率	80.0	-14.2
地方債残高	465.8億円	5.6億円減

前年度対比では改善されつつあるが、実質公債費比率は県内ワースト6位、将来負担比率は県内ワースト2位となっている。

決算特別委員会委員長報告（抜粋）

平成27年度決算議案は、一般会計と特別会計・企業会計の2つの特別委員会を設置し、審査を行いました。

一般会計決算特別委員会は、9月26日と27日の2日間、特別会計・企業会計決算特別委員会は、9月26日に開催され、審査の結果いずれも原案のとおり認定すべきものと決定しました。また、10月5日の本会議において、両特別委員会の審査経過及び審査結果が委員長から報告されました。各委員会で交わされた主な質疑は次のとおりです。

一般会計決算特別委員会

委員長
中上 禮一

- Q** 特定空き家の取り壊しが進まない要因として、固定資産税が上がるのが考えられるが。
- A** 今後は取り壊しなどの勧告がなされた建物の底地の部分になる土地について、次年度の固定資産税課税から、特例措置（軽減）の適用が外れることになる。
- Q** 茶エンナーレは、茶の振興と茶文化の振興が欠けているように思う。特に生産者との関係が見えないのでは。
- A** 茶エンナーレの事業内容については、お茶関係者の方々にもご意見をいただきながら、本番に向けての準備を進めている。
- Q** 今後の取り組みとして、地域生涯学習センターと地区まちづくり協議会との効率的な運営をあげているがその方向性は。
- A** 地域の進度に差が見受けられるため、地域組織の弱体化を招かないよう支援をしていく中で、計画的に効率化を図っていきたいと考えている。
- Q** 土手や堤防の草刈りについては、高齢化等が進む中、危険が伴うこともあり、地域での対応は困難では。
- A** 現在、多面的機能交付金を活用し対応していただいている地区が20地区あり、その金額は6,800万円である。この活用をさらに推進していきたい。

特別会計・企業会計決算特別委員会

委員長
山本 行男

- ◎ 国民健康保険特別会計**
- Q** 経済情勢の厳しい中で国保税の収納率が上がっている、この状況について伺う。
- A** 平成25年度から納税対策には職員を増員するなどの組織体制強化を図っている。公平公正の観点から滞納者の財産調査を徹底し、支払い能力のある方からは徴収し、支払い能力の無い方は欠損として処理した結果である。
- ◎ 介護保険特別会計**
- Q** 介護保険制度の改正に伴い地域支援事業が一部対象外となり、掛川市の負担が増えた部分と問題点について伺う。
- A** 要支援手前の方に対するホームヘルパーやショートステイの事業が市町の事業となり負担増となった。国は地域支援事業を徐々に市町に移行させる傾向にあるので、今後介護予防・日常生活総合事業は慎重に検討し対応していく。
- ◎ 公共下水道事業特別会計**
- Q** 掛川処理区の整備率が大変低いが、事業完了予定はいつごろか。
- A** 平成73年度を完了予定としているが、今の試算では更に遅れる。今後整備の遅れる地区は、合併浄化槽の整備をしていくなど事業転換を図っていく。
- ◎ 水道事業会計決算**
- Q** 現在の料金設定で経営が維持できるのか。
- A** 受水費が大きく影響するので、大井川広域水道事業団との平成29年度からの受水単価の見直しなどを踏まえて、今後の給水量の減少を考慮し再構築していく。

「かけがわ茶エンナーレ」 に大きな期待

茶文化の新たな創造による地域産業の活性化、子育て支援施策の拡充、地震津波対策費等に対する補正予算を審議・可決しました。

平成28年度一般会計補正予算（第2号）

補正額 **1億3,939万円**

補正後の予算額 **470億8,488万円**

主な内容

- 茶文化創造千日プロジェクト事業費 600万円増
茶エンナーレ開催委託料の増額
- 保育園等施設整備費 1,430万円増
認定こども園建設（大池）に係る造成工事費
- 待機児童解消対策費 210万円増
保育士の負担軽減を図るシステム導入費等補助
- 産地パワーアップ事業費補助金 680万円追加
水稻育苗施設の増設に対する補助
- ふるさと納税推進費 466万円増
ふるさと納税システム・出荷支援システムの導入
- 海岸防災林強化事業費 2,670万円増
希望の森づくりを拡充
- 松ヶ岡整備推進費 1,840万円増
インターネットによる寄附制度を導入
- 土木施設公共災害復旧事業費 1億1,340万円増
初馬乙星線

9月定例会における議案の審議結果一覧

	議案名	議決内容
予 算	平成28年度掛川市一般会計補正予算（第2号）について	全会一致可決
	平成28年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
	平成28年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
	平成28年度掛川市介護保険特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
	平成28年度掛川市駅周辺施設管理特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
	平成28年度掛川市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
	平成28年度東山財産区特別会計補正予算（第1号）について	全会一致可決
そ の 他	掛川市道路線の認定について	全会一致可決
	掛川市道路線の変更について	全会一致可決
	平成27年度掛川市水道事業会計剰余金の処分について	全会一致可決
	姉妹都市の提携について	全会一致可決
控訴の提起について	全会一致可決	
人 事	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	全会一致同意
決 算	平成27年度掛川市一般会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市公共用地取得特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市駅周辺施設管理特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について	全会一致認定
	平成27年度掛川市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数認定
	平成27年度上西郷財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	全会一致認定
	平成27年度桜木財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	全会一致認定
	平成27年度東山財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	全会一致認定
平成27年度佐束財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	全会一致認定	
平成27年度掛川市水道事業会計決算の認定について	賛成多数認定	
報 告	健全化判断比率の報告について	受 理
	掛川市簡易水道特別会計資金不足比率の報告について	受 理
	掛川市公共下水道事業特別会計資金不足比率の報告について	受 理
	掛川市農業集落排水事業特別会計資金不足比率の報告について	受 理
	掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計資金不足比率の報告について	受 理
掛川市水道事業会計資金不足比率の報告について	受 理	

議長に7人が立候補

～かけがわ子ども議会～

8月23日に掛川市初の子ども議会を開催しました。本番に備えた事前研修会では、竹嶋議長から任命証書を受け取り議員としての意識を高めたようでした。特に議長候補には我先にと手が挙がりその積極性に期待が膨らみました。

本番では、本会議場に入場する際、議席順に呼名され緊張感漂うなか一礼して議席に着きました。一般質問では、議員24人が教育・子育て、防災、交通、環境問題等単刀直入に市長、教育長の考えを問いましたが、その内容は市議会議員に勝るとも劣らないものでした。特に、掛川市第2次総合計画や地震・津波対策アクションプログラムを読んだ上での質問には、市長も驚きと喜びが交錯しているようでした。答弁後は、議員一人ひとりが市政への思いや感想を述べました。中でも市長との議論を受けて市議会議員に意欲を示す子ども議員に、傍聴者から感嘆の声が上がり拍手が起こる場面もありました。

議会終了後、子ども議員の感想として「市議会で話し合われた内容をもとに、市が良い方へと変わっていくことが分かった」「3年後には投票権を得るので、これをきっかけに同じ若い世代の人たちにも議会、掛川について知ってもらいたい」「3年後に選挙権を得る中学3年生が議会を実体験するのだから、子ども議会ではなく、他の名称がよいのでは」といった声が聞かれるなど、市政への参画意識が高まったことは大きな成果であったと思います。



議長抽選の様子



任命証書を受理した24人の子ども議員

「生涯お達者」で“ぴんぴんころり”を実現しよう 〈掛川市健康医療シンポジウム〉

9月9日、市民が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせる仕組み作りを目指すために、議員提案によって制定された「掛川市健康医療基本条例」への市民意識を高めるためのシンポジウムが、文化会館シオーネで開かれ、市民400人が参加しました。

記念講演をした静岡県医師会の篠原会長は、同条例制定は画期的なことだとし、今後、在宅医療のニーズがますます高まり、かかりつけ医を中心とした地域包括ケアシステムの構築が重要であり、そのためには本人や家族の覚悟・心構えが大切と指摘しました。

医師、住民代表、議員、行政の4人のパネリストからは、「元気なうちに終末期をどう迎えるかについて、4K（考える、家族と話し合う、書き記す、行動する）をG（元気なときに）進めたい」「行政や医療機関に任せるだけではなく、市民一人ひとりが将来を見据えて考えなければいけない。」など活発な意見が交わされました。



主催者 竹嶋善彦議長 あいさつ

聞こう

語ろう

まちのこと 議会報告会が始まります

掛川市議会では、市民の皆さまに議会活動や掛川市の重要な課題について知っていただくとともに、ご意見や提言などをうかがうため、議会報告会を開催します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。下記の日程表をご覧ください。都合のよい会場にご参加ください。事前の申し込みは必要ありません。

テーマ

- ① 市民の皆様が必要とされる議会を目指して
- ② お達者度日本一を目指して
- ③ 特別委員会の中間報告

開催日	地域	会場
11月7日(月)	東中学校区	南郷地域生涯学習センター
	大須賀中学校区	大須賀支所2階市民交流センター
11月8日(火)	栄川中学校区	栄川中学校多目的ホール
11月9日(水)	西中学校区	市役所4階会議室
11月10日(木)	桜が丘中学校区	和田岡地域学習センター
11月11日(金)	大浜中学校区	大東支所3階市民交流センター
11月14日(月)	原野谷中学校区	原田地域生涯学習センター
11月17日(木)	北中学校区	初馬会館
11月24日(木)	城東中学校区	大東北公民館

開催時間は全会場、午後7時からです。



一般質問 Q&A



創世会
山崎恒男

「義務教育学校」 小中一貫教育の推進は

Q 検討委員会の進捗状況及び検討後の推進に向けたスケジュールについて伺う。

A 検討委員会は6回の開催を予定しており、現在3回開催した。本年度末に、検討委員会から提出される報告書の内容にもよるが、平成29年度から、実際に小中一貫教育を推進するために、モデルとなる中学校区を決めて、小中一貫教育の実践研究を進めていく。この実践研究から、掛川ならではの小中一貫教育モデルを提案し、それを他の中学校区にも広め、将来的には、9中学校区全てにおいて小中一貫教育を展開していきたいと考えている。

市長二期目の実績と今後は

Q 松井市政を継続推進するため、来年4月市長選挙

の出馬について市長の考えを伺う。

A 引き続き市政のかじ取りをさせていただきたい

Q 市長に就任してからの7年半、市議会との連携、市民・企業との協働のおかげで数々の事業を成功させることができ、この成果には大いに手応えを感じている。一方で、目の前に積み上げられた課題は数々あり、果敢に取り組まなければならない。2040年の将来人口12万人という高い目標の達成に向け、次の4年間でその道筋をつけることが私の使命だと思っている。

A 引き続き市政のかじ取りをさせていただきたいと決意をしている。



学校教育法等の一部を改正する法律案の概要



創世会
二村禮一

安心して暮らせる地域完結型医療の体制づくりは

Q 可能な限り住み慣れた場所ですみ暮らしを過ごす生活の質を重視する在宅医療推進の取り組みについて伺う。

A 小笠医師会が行政と連携した活動を開始

Q 掛川市では、在宅医療・介護の支援拠点のふくしあを整備し、訪問看護ステーションの人員確保、資質向上の支援などの機能強化を図ってきた。在宅医療は、6施設の在宅療養支援診療所を



在宅医療推進が語られた
掛川市健康医療シンポジウム

中心に取り組んでいるが、在宅医療を担う医師の増加が課題である。在宅医療の推進は、8月から小笠医師会が、在宅医療推進員を2人雇用し、行政と連携した活動を開始した。

海岸防災林の事業計画は

Q 「潮騒の杜」の早期完成に向けての強化事業の進捗状況について伺う。

A 360mの築堤を計画

Q 海岸防災林強化事業は、平成26年度に沖之須地区で工事着手し、平成27年度までに420mが完成している。平成28年度は360mの築堤を計画しており、現在、沖之須地区で、約90mの築堤を実施中で、10月からは新たに三俣地区で、約20mの築堤に着手する予定である。

測量設計業務については、平成29年度以降の計画区間として、沖之須地区で500m、浜野地区で450mを実施する。



一般質問 Q&A



創造みらい
榎葉正樹

選挙事務に高校生の起用は

Q 高校生にも主権者としての意識を持ってもらう、投票率向上を促すため、投票立会人や選挙事務に高校生を起用する考えがあるか伺う。

投票立会人等への起用にに向けて検討中である

A 高校生が投票事務等を行うことは、これらの体験を通じ、生徒自身の投票意識の向上や、社会参画に対する関心を高めるきっかけとして、大変意義がある。

現在、他市の状況等を参考に、導入に向けた検討を行っている。導入にあたっては、市内の高校と相談のうえ、数か所の投票所において、投票立会人等に選任し、その成果や課題を検証し、他の投票区にも広げていきたい。

子どもの政治への関心を高めるための親に対する教育は

Q 公職選挙法の一部改正により、投票所に入ること

ができる子どもの範囲が児童・生徒その他の年齢18歳未満の者に拡大された。選挙人が子どもを投票所に連れて行くことにより、家庭で選挙や投票に関する話が話題になるなど将来の有権者への有効な選挙啓発につながるものと考えられるが見解を伺う。

SNSを活用した情報発信を検討中である

A 小さい頃から親が投票に行く姿を見て育てば、早い時期から投票への関心が高まり、投票率の向上につながる。参議院選挙では、乳幼児を持つ若い親御さんを対象に啓発物品を配布した。今後は新たな啓発事業として、SNSの利用頻度が高い若年層や子どもを持つ親の年代向けに、SNS等を活用した情報発信を実施する方向で検討している。

【他の質問事項】市長の2期8年目の自己評価、今後について



創世会
野口安男

(仮)掛川西環状線の道路整備計画は

Q 3年前に一般質問をして以来、その進捗状況が見えない。国や県の考え方とともに、掛川市として一層の推進を図っていくことが大切である。市長は、どのような努力をし、実現しようと考えているのか伺う。

実現可能性の検討を進めていく

A 西環状線のあり方について、袋井市と合同の勉強会を開始し、今後は連携して事業推進に努める。今までは違った発想による実現可能性の高い検討を進めていく。

小・中学生の「体力・運動能力調査」の結果は

Q 掛川市の結果は、男女とも良かったが、要因は何か伺う。また、今後の体育・スポーツの向上のためにどのようにしていくのか伺う。

ボールの投げ方指導の工夫をしている

A 掛川市のボール投げの平均は、小学校5年生、中学校2年生共に全国平均より高い。フォーム等投げ方指導の工夫をしている。今後も「ボールを使った運動」の指導の充実を図り、また柔軟性を高める補助運動や腹筋、背筋などを鍛える補強運動により「体力・運動能力」の向上につなげていく。



(仮)掛川西環状線と繋がるであろう梅橋交差点



一般質問 Q&A

西山口小学校の学童保育を分室から専用室へ



共産党 掛川市議団 鷺山喜久

Q 西山口小学校の学童保育は、希望者が多く、家庭科教室を3年生が使用している。そのため、市条例には適合しているが、環境的に不十分であり、専用室の新築を望む。

状況の大きな変化があれば検討する

A 学童保育の新たな施設整備の方針としては、西山口小学童保育所に限らず、学校施設の使用を第一に考えている。来年度以降も、学校、地域と行事等の調整を図りながら引き続き使用していきたい。新築する考えは、現段階ではないが、今後状況の大きな変化があれば、さまざまな検討が必要になると考えている。

宮脇地区は、宅地化が進み排水は緊急課題

Q 市長は、排水対策は最重点課題としているが具

体的対策や、「協働によるまちづくり計画」、「生涯学習まちづくり土地条例」で開発業者に社会的規制ができるか。

土地の公共性と適正な土地利用の必要性について御理解をいただく

A まず土地所有者に土地利用の必要性について御理解をいただく必要があると考える。合わせて、地区まちづくり協議会を中心に、地権者と住民による地区の課題を解決するまちづくり計画を策定し「生涯学習まちづくり土地条例」に基づき、策定したまちづくり計画を、地権者と地元住民及び掛川市で協定し、締結を行うことにより、課題となる土地利用を抑制することと、開発業者による良質な土地利用が推進されるものと考えている。



西山口小学童保育所

地方創生交付金の活用と課題



創世会 雪山敏行

Q 地方創生は、地方自治体の今後のあり方を問われる試金石である。地方活性化交付金で実施している事業は目的を達成するための入り口の施策である。継続的に実施しなければ事業効果が発揮できない事業もある。今後の対応をどのようにするのか伺う。

29年度予算で支援することも考えていきたい

A 平成28年度、新たに国交付金により、じもと産業タスクフォースセンター事業や互産互消推進事業の2事業を実施しており、法人の設立、その後の自立した運営を目指す。じもと産業タスクフォースセンター事業については、将来的に自立するためには、数年間は支援が必要だと判断している。

また、互産互消推進事業は、地方都市間での地域産品交流、人的交流を専門的かつ横断的に行っていく地域商社を設立し、地方都市間の互産互消ネットワークを形成、地域産品・観光・定住交流につなげ、地域経済の

活性化を図るものであり、平成28年度法人の設立、マーケティング調査などを実施している。各事業の実施状況によっては29年度予算で支援することも考えていきたい。

医福食農連携による健康都市づくり

Q 近年、医療分野や福祉分野と連携した農業分野の取り組みが盛んになっている。薬用作物の栽培及びリハビリ農園の開設など医療と農業連携について調査検討組織を立ち上げ研究する必要があると考えるが所見を伺う。

コスト面で経営が成り立つのかなどを研究する

A 掛川市では、かねてより緑茶の持つ健康機能面に着目し、「掛川スタディ」として、国の資金も活用しつつ取り組んできた。結果、掛川茶の高い品質とあいまって、地域ブランドが確立され、付加価値向上という成果につながってきた。

薬用作物については、まず、新たな作物導入による農業振興という観点や、栽培適地か、技術的に可能か、更にコスト面で経営が成り立つのかなどを研究し、関係者の組織化等も併せて、取り組みを検討していく。



一般質問 Q&A



共産党
掛川市議団
渡邊久次

耕作放棄地を解消し地域農業の振興のための方策は

Q 人・農地プランによる農地の集積化は、耕作放棄地の解消につながるのか。掛川市の耕作放棄地の再生利用対策の実施状況を伺う。

農地中間管理機構や国の再生利用対策交付金等の活用

A 農地中間管理機構を活用した、地域の担い手への農地集積は発生抑制の観点から有効な手段の一つと考える。ただし、制度を活用しにくい農地もあり、これだけで解消できるものではない。このため、国の再生利用交付金の活用や、自力再生、やる気塾による取り組みの支援等、さまざまな手法により、引き続き耕作放棄地の解消に努めていく。

小中学校教職員の多忙な勤務の改善のための方策は

Q 教職員の時間外勤務時間数の平均が小学校39時間、中学校59時間となり、多忙

な勤務実態が更に進んでいる。多忙化を解消するために、教職員の配置や「学校運営の見直し」をどのように進めていくのかを伺う。

教職員の定数増について、国や県に働きかけている

A 根本的な解決策には、教職員の定数増が必要であり、教職員の定数増について、国や県に働きかけている。市は、非常勤職員の配置増に努め、教員が授業に集中できるように支援をしている。この他、ICT活用として「校務支援システム」を導入した。出席簿や成績処理、指導要録の作成等が効率的になり、子どもと向き合う時間が増えた。また、各学校では、会議の効率化、定時退庁日の設定等学校運営の工夫を行っている。



耕作放棄水田



創世会
小沼秀朗

水道について

Q 掛川市議会は、水道事業に対し、平成26年4月4日に「水道事業に係る提言書」を政策提言した。今後私達の暮らしに必要な命の水が、リニア中央新幹線建設工事により不足が発生した場合、その対策をいかに考えているのか伺う。

計画路線の湧水をポンプアップにより河川流量の減少を回避

A J R 東海では、河川流量の減少対策として、大井川の右岸側に導水路トンネルを設置し、必要に応じて計画路線の湧水を導水路トンネル取付位置までポンプアップすることにより、河川流量の減少を回避することが可能であると考えている。今後も



十九首水源地公園
「水道感謝のつどい」

環境保全対策について、各種協議会と連携し、J R 東海に対して働きかけをしていく。

掛川市の転入人口増加策を伺う

Q 「ふるさとワーキングホリデー」や「地域おこし協力隊」をはじめとした、数多くの国の地方創生策を市民とともに考え、全国から見ても掛川市の将来に期待の持てる計画、若者にもわかりやすい計画、転入人口増加となる策をいかに考えるのか伺う。

日本一の子育て支援が進んでいる掛川市というメッセージを発信していく

A 現在掛川市には、地域おこし協力隊はないが、移住定住施策を推進していく手法の一つとして今後の可能性を探りたい。また施策展開に向けては、市民委員会での検討も考えたい。待機児童ゼロ対策他賑わい創出策など、若者が掛川に集まりたくくなるような施策をしっかりと位置づけ、若い方が生活するのに大変すばらしいところ、日本一の子育て支援が進んでいる掛川市というメッセージを積極的に情報発信していきたい。



一般質問

Q&A



無党派の会
窪野愛子

指定管理期間終了となる施設 今後の対応は

Q 制度導入施設は42あり、15施設が本年度末に期間が終了となる。住民サービスの向上や多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応するために運営から経営へと発想の転換が必要ではないか、見解を伺う。

指定管理者が施設を経営できる環境づくりを進めていく

A 引き続き指定管理者制度の導入を考えており、原則として、公募プロポーザルにより次期指定管理者を選定する予定であり、施設の設置目的や費用対効果等を勘案した中で、利用者サービスを最大化するための提案をさまざまな団体から受けたいと考えている。

ふじのくに企業等への施設紹介フェアに参加し、今回の15施設を積極的にPRした。また、さまざまな団体から申請いただき、ため、施設の管理運営方針や業務要求水準を明確に示し、温泉施設やスポーツ施設など収益性が高い施設については、行政の関与をできるだけ少なくし、単に施設を管理するだけの運営

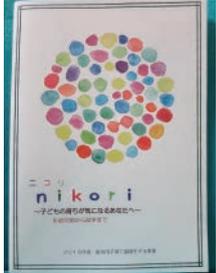
から、施設利用者数と収益を今まで以上に増やし、指定管理者が施設を経営できる環境づくりを進めていく。

発達障害者支援法改正を踏まえた本市の取り組みは

Q 改正支援法の理念「切れ目のない支援」を行うためには、現在の成長過程で担当が変わる窓口業務を改善し、当事者や家族にとつてわかりやすい、各部署の担当窓口の一本化を図れないか伺う。

窓口の一本化に向けて検討する

A 掛川市では、切れ目のない支援を図るために、乳幼児期の各種健康診断において早期発見に努め、発達の状態によって、こども発達センターめばえの利用や、社会福祉協議会の子育て支援員による訪問につなげている。就学期は、小学校の特別支援学級、特別支援学校等に対応している。窓口の一本化は必要なことと考えるので、今後一本化に向けた検討をする。



掛川市子育て協働モデル事業で作成されたサポートブック『ニコリ』



創世会
大場雄三

いこいの広場管理計画を問う

Q 掛川球場は昭和51年に建設され、現在ではいたる箇所において老朽化が見られる。平成8年にはバックネット裏スタンドが改築されたが、今後、安全性や利便性を考慮した改修が必要だと考えるが、今後の整備計画について伺う。

安全確保を最優先に計画的な補修を行う

A 掛川球場は昭和51年の供用開始以来40年が経過しており、老朽化が進んでいる。施設の補修については、指定管理者の掛川市体育協会と相談し、緊急性の高いものから優先して補修を行っており、今後も安全確保を最優先



老朽化が進む掛川球場

に計画的な補修を行っていく。来年度以降は、特に劣化等の目立つスコアボードの改修を進めたい。

道路整備における安全性の確保を提案

Q 現在建設が進められている市道桜木中横断線について、交差点設置において、安全対策が必要である。重大事故の発生が起きにくいとされる、ラウンドアバウト方式の交差点設置を提案するが、所見を伺う。

導入を推進していきたい

A ラウンドアバウトは、円形の平面交差点で、信号や一時停止の規制が無い、環状の交差点である。今年の7月に開催した、中部環境先進5市サミットの席上、ラウンドアバウトを設置されている飯田市長より、安全性、アイドリングをしない環境性、信号機を使わない経済性、災害時に機能する自立性などの効果があり、CO₂の減少も確認されているとの話を聞いた。

環境日本一を目指す掛川市においては、環境性の効果もあることから、諸条件が整えば、導入を推進していきたいと考えている。



一般質問 Q&A



公明党
かがわ
山本行男

下水道事業の見直しは

Q 今年度は平成23年度策定した下水道計画5年毎の中間見直しの年であり、現在庁内で作業を進めている。財政負担の平準化と維持管理の低減策を念頭に円滑な事業推進に努められるよう期待するが公共下水道の整備をどこまで進めていくのか伺う。

早期に整備すべき区域を設定する

A 公共下水道については国の指針に基づいて見直し、早期に整備すべき区域を設定することでありませう。

汚水処理事業の今後の取り組みは

Q 農業集落排水事業や浄化槽市町村設置推進事業などの今後の取り組みを伺う。

効率的な汚水処理事業を推進する

A 農業集落排水事業については施設の機能診断

により、また、老朽化したコミュニティプラントもあわせて公共下水道に統合し、施設更新費や維持管理費を削減して効率的な運営を目指す。
なお、これらの整備の財源に充てる起債の発行は計画的に行い、将来負担に配慮して事業を実施する。
浄化槽市町村設置推進事業は、平成29年度以降の新規地区の実施はとりやめ、同事業未実施地区での汚水処理については浄化槽個人設置事業を推進する。



設置された合併浄化槽

中央小の改築工事に伴う、周辺環境対策に関して



創世会
山本裕三

Q 築50年以上経つ中央小の北校舎、中校舎の改築工事がいよいよ始まった。旧校舎から新校舎になるにあたり、グラウンドの位置が南北から、東西に広がる形となり、グラウンドの砂が校外へ舞う方角は大きく変わることになる。現状の防砂対策計画で十分か伺う。

砂塵の飛散を少しでも減らすよう配慮している

A 新校舎の完成後、現在の校舎を解体し、グラウンドを整備する。新しいグラウンドの東側に防球ネットを設置し、その下部は網目の細かい防砂ネットとして、砂塵の飛散を防止する。また、駐車場を舗装したり、敷地境界に生け垣を設けるなど、砂塵の飛散を減らすよう配慮する。砂塵については主に西風を考慮しているが、完成後の状況を確認して必要があれば対策を検討したい。

工事が与える影響や課題は

Q 新学期も始まった中で、生徒の通学や学校生活、学校イベント等に工事が与える影響や課題を当局としてどのように捉えているか伺う。

工事の安全及び子どもの運動量を確保する

A 安全面では、工事エリアと校内通路が交差するため、学校内に歩道橋を設け、安全に通学できるよう配慮した。体育の授業は、支障なく実施できているが、子ども達の運動量を確保するため、なわとびやドッチボールを積極的に取り入れるなどの工夫を考えている。小学校陸上競技大会に向けて、NECのグラウンドや西中学校、エコパへ出向いての練習を計画している。



改築中の中央小学校

議会日誌

7月

- 11日 ● 議会だより編集特別委員会
- 12日～14日
 - 文教厚生委員会行政視察
(千葉県鴨川市、佐倉市、栃木県宇都宮市)
- 15日 ● 第3回子ども・子育て支援特別委員会
- 19日 ● 中東遠地区市議会議長協議会
- 20日 ● 市議会全員協議会
 - 議会報告会全体会議
 - 第3回公共交通あり方検討特別委員会
 - 第5回議会活性化特別委員会
- 22日 ● 東遠議員交流フォーラム
- 25日～26日
 - 子ども・子育て支援特別委員会行政視察(富山県滑川市、富山市)
- 27日 ● 文教厚生委員会協議会

28日～29日

- 議員東京研修

8月

- 8日 ● 東遠学園組合議会
 - 掛川市・袋井市病院企業団議会
- 9日 ● 議会だより編集特別委員会行政視察(静岡新聞社)
- 10日 ● 東遠地区聖苑組合議会
 - 東遠工業用水道企業団議会
全員協議会
 - 東遠工業用水道企業団議会
- 16日 ● 東遠広域施設組合議会
- 17日 ● 掛川市・菊川市衛生施設組合議会
 - 小笠老人ホーム施設組合議会
- 18日 ● 県市町議会議員研修会(静岡市)
- 19日 ● 市議会全員協議会
 - 第4回子ども・子育て支援特別委員会
 - 第6回議会活性化特別委員会
- 23日 ● かけがわ子ども議会
- 24日 ● 第4回公共交通あり方検討特別委員会

- 25日 ● 議会運営委員会
 - 議員懇談会

29日～31日

- 環境産業委員会行政視察
(北海道札幌市、帯広市)

9月

- 1日～10月5日
 - 掛川市議会第3回(9月)定例会
- 5日 ● 議会だより編集特別委員会
- 9日 ● 掛川市健康医療シンポジウム
- 12日 ● 第5回子ども・子育て支援特別委員会
- 13日 ● 議会運営委員会
- 15日 ● 議員懇談会
 - 環境産業委員会協議会
- 20日 ● 議会運営委員会
 - 第7回議会活性化特別委員会
- 23日 ● 第5回公共交通あり方検討特別委員会
- 28日 ● 議会運営委員会
 - 議会だより編集特別委員会

11月定例会の予定

【11月】

- 22日 本会議(議案の提案説明)

【12月】

- 5日 本会議(一般質問)
- 6日 本会議(一般質問)
- 7日 本会議(一般質問、議案質疑、委員会付託)・常任委員会
- 12日 常任委員会協議会
- 21日 本会議
(委員長報告、質疑、討論、採決)

傍聴席

「ねえ、議会の傍聴に行ってみない？」とお誘いがあり、議場に初めて足を運んだのは今年初旬のこと。子どもを連れて訪れた議会は、議場に入つての傍聴はかきませんでした。あれから数か月、今回9月定例会は家族の支援もあり傍聴ができませんでした。今回、我が子の今日とこれからの関係する質問が出されたこともあり、同じ悩みを抱えるお母さん達にも声をかけ、傍聴しました。市議会Ⅱ「私たちの未来をつくる場」という事を肌で感じました。これからも傍聴にみなでいきたいと思います。

日坂地区 宮城真由子

編集後記

「親しみのあるものに」

議会だより編集委員会では、市民の皆様が親しみのあるたよりになるよう心がけています。今年「静岡新聞社」を訪れ、編集方法を学んで来ました。

表紙の写真は、掛川市民の取り組みの様子を掲載すること、見出しは、十文字以内で簡潔にすること、議会だよりならではの内容を提供すること等を実践しています。

よりよい議会だよりにするために、市民の皆様のご感想や御意見をお待ちしております。

議会だより編集委員

野口安男



※この市議会だよりは、資源リサイクル推進のためグリーン購入法適合再生紙を利用しています。

平成28年11月1日

編集/発行 掛川市議会

静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1

☎0537(21)1160 <http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>



左のコードをスマートフォンやタブレットで読み取るとホームページが見られます。